

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患克服研究事業）
（分担）研究報告書

消化管を主座とする好酸球性炎症症候群の診断治療法開発
疫学、病態解明に関する研究

研究分担者 松井 敏幸 福岡大学筑紫病院 消化器内科 教授

研究要旨：2013年雑誌「胃と腸」誌上、において eosinophilic gastrointestinal disorder (EGID)の呼称が好酸球性消化管疾患と統一された。また、本疾患の基本概念と各臓器における概念、診断基準と取扱いが包括的に記述された。さらに、成人と小児における EGID の相違についても述べられ、我が国における EGID の啓蒙に大きく役立った。

（分担研究者）

福岡大学筑紫病院 消化器内科
教授 松井 敏幸

A．研究目的

著者らは、これまでに炎症性腸疾患の診断基準、鑑別診断に関する研究を継続してきた。その成果は、我が国におけるIBD診断基準の作成につながりその改訂も進め、公表してきた。その内容は我が国におけるガイドラインとしても取り上げられてきた。また、早期クローン病の診断や好酸球性腸消化管疾患（EGID）との鑑別に関しても研究を進めてきた。

B．研究方法

今回、消化器内科医を対象とする雑誌「胃と腸」48巻13号（2013）にEGIDに関する特集を組み、我が国を代表する研究者に診断基準と治療の方針を小児と成人に分けて掲載することになった。

（倫理面への配慮）

総説や原著論文であり、患者情報は含まれていない。

C．研究結果

胃と腸誌では、以下のように我が国における好酸球性消化管疾患の最新の状況についてまとめ、論説した。

- 1)好酸球性消化管疾患の考え方・松井敏幸
 - 2)好酸球性消化管疾患の診断基準・木下芳一
 - 3)小児における好酸球性消化管疾患の概念
 - 小児と成人における異同に主眼を置いて
 - ・野村伊知郎
 - 4)小児における好酸球性消化管疾患の診断
 - ・山田佳之
 - 5)好酸球性消化管疾患の診断と治療 - 好酸球性食道炎
 - ・友松雄一郎
 - 6)好酸球性消化管疾患の概念 - 好酸球性消化管疾患の病理
 - ・平橋 美奈子
 - 7)好酸球性胃腸炎の診断根拠 - 福岡大学における実態
 - ・石川智士
- などが主な論文であり、我が国における呼称を好酸球性消化管疾患とすることについても合意がえられた。

D．考察

好酸球性消化管疾患（EGID）は海外でも様々な呼称が用いられており、我が国で呼称が統一された意義は大きい。その病態も我が国と海外で差があるように見える。更なる研究の進歩と調査が必要であり、重症例に対する治療法の確立も望まれる。公表された診断基準により病態解明が進むものと思われる。また、わが国における先進的な成果を一堂に集めたことにより認知度が高まった。

E．結論

海外で多く研究されてきた好酸球性消化管疾患は我が国にも存在する。好酸球性消化管疾患は海外でも様々な呼称が用いられており、我が国で呼称が統一された意義は大きい。今後の病態解明と治療法探策研究が必要である。

F．研究発表

1. 論文発表

1, 著者名：Tsurumi K, Matsui T, Hirai F, Takatsu N, Yano Y, Hisabe T, Sato Y, Beppu T, Fujiwara S, Ishikawa S, Matsushima Y, Okado Y, Ono Y, Yoshizawa N, Nagahama T, Takaki Y, Yao K, Iwashita A.

論文名：Incidence, clinical characteristics, long-term course, and comparison of progressive and nonprogressive cases of aphthous-type Crohn's disease: a single-center cohort study.

雑誌名：Digestion. 2013; 87: 262-8

2, 著者名：Hisabe T, Hirai F, Matsui T, Watanabe M.

論文名：Evaluation of diagnostic criteria for Crohn's disease in Japan.

雑誌名：J Gastroenterol. 2014;49:93-9.

3, 著者名：Ueno F, Matsui T, Matsumoto T, Matsuoka K, Watanabe M, Hibi T.

論文名：Evidence-based clinical practice guidelines for Crohn's disease, integrated with formal consensus of experts in Japan.

雑誌名：J Gastroenterol. 48: 31-72, 2013

4, 著者名 : Ono Y, Hirai F, Matsui T, Beppu T, Yano Y, Takatsu N, Takaki Y, Nagahama T, Hisabe T, Yao K, Higashi D, Futami K.

論文名 : Value of concomitant endoscopic balloon dilation for intestinal stricture during long-term infliximab therapy in patients with Crohn's disease.

雑誌名 : Dig Endosc. 24: 432-438, 2012

5, 著者名 : Yano Y, Matsui T, Hirai F, Sato Y, Tsurumi K, Ishikawa S, Beppu T, Koga A, Yoshizawa N, Higashi D, Futami K.

論文名 : Cancer risk in Japanese Crohn's disease patients: Investigation of the standardized incidence ratio.

雑誌名 : J Gastroenterol Hepatol 28: 1300-1305, 2013.

6, 著者名 : Kinoshita Y, Furuta K, Ishimura N, Ishihara S, Sato S, Maruyama R, Ohara S, Matsumoto T, Sakamoto C, Matsui T, Ishikawa S, Chiba T.

論文名 : Clinical characteristics of Japanese patients with eosinophilic esophagitis and eosinophilic gastroenteritis.

雑誌名 : J Gastroenterol 48: 333-339, 2013.

7, 著者名 : 松井 敏幸

論文名 : 【序説】 好酸球性消化管疾患の考え方。

雑誌名 : 胃と腸 48(13); 1849-1852, 2013.

8, 著者名 : 石川智士、松井 敏幸。

論文名 : 好酸球性胃腸炎の診断根拠 福岡大学における実態

雑誌名 : 胃と腸 48(13); 1883-1896, 2013.

2. 学会発表

1) 石川智士、松井敏幸、木下芳一. 本邦での好酸球性胃腸炎の実態調査～当院での経験も含めて～. 第84回日本消化器内視鏡学会総会 (JDDW2012) 2012年10月10日

2) 矢野 豊、平井郁仁、松井敏幸. 当科におけるクローン病に対するアダリムマブの治療成績. 第98回日本消化器病学会総会 2012年4月19日- 4月21日

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし